

多摩地域の在宅医療・介護・福祉・保健を支える

ふれあい通信

2022
12月号



Index

P2 **特集** たまふれあいクリニック・医師インタビュー
訪問診療の難しさ、やりがいをお聞きました

P5 第3回たまふれあいグループ多職種連携感謝セミナーのご案内

P6 ケアマネ相談室 File 4 たまふれあいグループ連携施設のご紹介 その5

P8 スタッフ紹介 たまレポ! 地域連携看護師 中村絵里さん

特集

たまふれあいクリニック
医師インタビュー

訪問診療の難しさ、やりがいをお聞きしました

たまふれあいクリニックでは現在、常勤と非常勤医師を合わせて12人のシフト体制により、24時間在宅の患者さんを支えています。院長の鈴木忠先生をはじめ4人の常勤医に、訪問診療の難しさややりがい、今後の抱負について広報担当がお話を伺いました。



訪問診療を始めたきっかけを教えてください。

山本先生 勤務医の頃、主に脳卒中を診ていましたが、急性期の患者さんが慢性期でどうなっていくのかに興味を持ち、1人の患者さんの全体を診ていきたいと思って在宅の世界に飛び込みました。

杉浦先生 約3年、大学病院に勤務した後、緩和ケアがやりたかったため、精神神経科で学びました。その後、緩和ケア病棟で約4年、内科兼緩和ケアを担当し、夫の開業でクリニックを兼務するようになりました。育児が落ち着いたので、大学病院で2年勤務後、社会的に必要性が増している在宅という場で緩和ケアを実践しようと、たまふれあいクリニックに入職しました。

片柳先生 大学医局と病院のトラブルで、予定していた外勤先が無くなる事態になり、その穴埋めで条件に合ったのがたまふれあい訪問診療でした。50歳を過ぎた時に、65歳まで腹腔鏡のモニターを見ながら手術をするのか迷いが生じ

るようになり、外科医を離れるのも一つだと思い立って、一気に訪問診療へ舵を切りました。

鈴木先生 勤務医時代に、医者も病院経営を知っておく必要があると感じて、コンサルティング会社に転職して経営を学びました。その中で、地域の医療・介護・福祉を面で引き上げる、独自の「たまヘルスケアクラスター構想」を立案し、在宅医療がその考えに近いと感じて、コンサルティング会社に勤めながら訪問診療を2年くらい勉強して、開業しました。

経験が生きていると感じることはありますか。

杉浦先生 もともと外来よりも病棟勤務が好きで、ホスピス勤務の時はご家族が疑問をどんどん聞きにきたり、ご家族の問題を相談したりしてくれました。ムンテラを繰り返してじっくり関わっていました。キャラクター的に患者さんが緊張しないで接してくださるため、訪問診療は自分に合っているかもしれないと気付きました。

片柳先生 高齢や認知機能の程度により、既往歴を忘れている患者さん多いです。初診でおなかの手術痕を見つけて既往歴を発見することもあります。

診察に当たり心掛けていることなどはありますか。

山本先生 訪問診療では2週おきに患者さんを診られるので、メインでかかっている総合病院の外来より、もっと気軽に

に相談できる、患者さんにより身近なポジションという強みを生かして、変化に早めに気付きたいと思っています。

病院は患者にとってアウェー、ご自宅がホームです。患者さんのホームでは「病院では見せていなかった素の姿、思い」が見えやすいと感じました。よく「診察室に患者さんが入ってくるところから診察だ」と言いますが、訪問診療では患者さんのご自宅に上がるところから診察です。その人の、人となり、部屋に表れているので、そこを皮切りに人間関係を築いていくことで心を開いていただくように努めています。

かたやなぎ そう
片柳 創先生

東京医科大学医学部卒業。東京医科大学外科学第三講座（現：消化器・小児外科学分野）入局。東京都立駒込病院胃外科など、外科医として27年間勤務後、たまふれあいクリニック入職。東京医科大学病院消化器外科・小児外科兼任准教授。

すずき ただし
鈴木 忠先生

日本医科大学医学部卒業。東京女子医科大学消化器病センター外科、横浜総合病院外科を経て、医療コンサルタントとして株式会社メディカルクリエイト入社。複数の在宅診療所にて勤務後、たまふれあいクリニック開設。たまふれあいグループ代表。

すぎうら
杉浦 ちとせ先生

杏林大学医学部卒業。杏林大学医学部附属病院第1内科（腎臓内科）入局、賛育会病院緩和ケア科、一般診療所での経験を経てたまふれあいクリニック入職。

やまもと さとみ
山本 智美先生

杏林大学大学院医学研究科卒業。杏林大学医学部附属病院第1内科（神経内科・脳卒中科）入局。約10年勤務後、たまふれあいクリニック入職。





鈴木先生 政府の方針をみると、在宅でより重症の人を診ていく方向に変わっていくでしょう。在宅が推進されていくのは間違いないと思いますが、今ある在宅クリニックの数では足りないし、簡単には増やせないはずなので、クリニックの先生が外来の延長線で在宅でも患者さんを診て、難しくなったらわれわれ在宅専門のクリニックが受けるという流れに変わっていくと思います。そのためには、一定程度の数の医師がいて、夜間もみんな分担できる世界をつくる必要があります。在宅総合診療医を育てる必要があります。育成をバックアップする仕組みも必要でしょう。若い在宅医を養成できるクリニックに育てていきたいですね。



地域の医療・介護・福祉関係者の皆さまへ、日頃の感謝を込めて

第3回 たまふれあいグループ

多職種連携感謝セミナーのご案内

演題 幸せな在宅死に向けて

垣添 忠生先生

国立がんセンター名誉総長
公益財団法人日本対がん協会会長

入院以来、どんなきつい治療にも耐え
いっさいの弱音もわがままも言わなかった妻が
一つだけ強く希望したことがある。
「年末年始はどうしても家で過ごしたい」
(著書『妻を看取る日』より)

ご自身ががん患者・がん患者遺族となった経験を持ち、
全がんの対策にご尽力されている垣添先生をお招きします。

関係者様限定公開

講演動画を無料でご視聴いただけます。
お申し込み方法など詳細は次号でご案内予定です。



2023年
2月配信
予定!



鈴木先生 今、精神障害で皆の手から
もれ落ちていた人を診ていますが、世
の中に似たケースはたくさんあると思
います。医療だけでなく、介護や福祉の
角度からも、そういう制度を活用する
か、どんなサービスを使うかなど、マネ
ジメントが可能です。世の中にあるリ
ソースを生かしながら、その人のベス
トを探して実現することに魅せられ
ますね。



杉浦先生 家族が希望するならいろん
な可能性に対応してあげたいのですが、
現実には多方面への負担がかかる選択
になることもあるので、バランスを取る
のが難しいですね。



一方で、難しさはありますか。

訪問診療の醍醐味は
なんですか。

今後の抱負をお願いします。

山本先生 10年以上やってきた神経内
科以外を広げていきたいですね。内科
として期待される心エコーや腹部エ
コーなどは得意ではないので勉強した
いですし、昔、在宅は「何でも屋」と言わ
れましたが、そのいいところを目指し



杉浦先生 いろんな先生がいるので気
さくにお話を伺って、在宅というでき
ることが限られた中で、いかに高度にし
ていくにはどうすればいいか、余計なこ
ろがそぎ落とされて、必要な情報だけ
を拾って、いかに患者さんの治療に役立
てていくかを追いかけています。

片柳先生 たまふれあいクリニックは
訪問診療なのに、さまざまな科の先生
がいて驚かれる人もいます。分らない
ことはそれぞれ得意な先生にどん
どん聞いて、病態を安定させるだけで
はなく、良くしてあげingことを念頭に
置きながら、グループ全体の医療の質
を上げていきたいです。あと、患者さん
ご本人もご家族にも、笑いを引き起こ

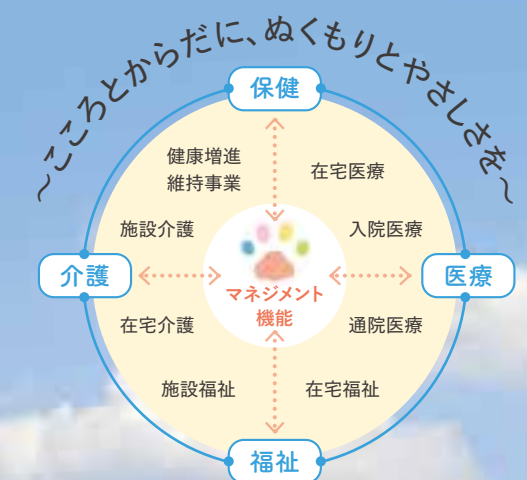
地域で暮らし、 地域で生きる ということ。

人々は地域で暮らし、地域の中で生きています。

世の中がどれほど発達したとしても、
人々の暮らしは地域の中にあります。

そして、たとえどんなに科学技術が進んだとしても、
人が人へ伝えるぬくもりや、やさしさを
超えることはできないと考えています。

だからこそ、私たちは地域に徹底した
こだわりを持ち続けます。



地域の人々の、
よりよい生活と人生のために



たまふれあいグループは、医療・介護・福祉・保健事業を
統合的に展開する医療法人グループです。

- たまふれあいクリニック
訪問診療／専門外来／訪問リハビリテーション
- たまふれあい訪問看護ステーション
- たまふれあい居宅介護支援事業所
- たまふれあいの森
健康相談／セミナー／健康チェック
川崎市多摩区登戸1763 ライフガーデン向ヶ丘2F
- たまふれあいグループホーム 枳形（医療・看取り対応型）
- ナース&ケアハウス ふれあい（看護小規模多機能型居宅介護）
川崎市多摩区枳形6-19-8
- たまふれあいグループホーム 登戸新町（医療・看取り対応型）
川崎市多摩区登戸新町186
- デイサービスふれあい
川崎市多摩区生田3-18-2 アボードベア1F
- たまフレ！（障がい者就労支援事業所）
川崎市多摩区登戸2519-1 ヨシザワ10ビル4F

ケアマネジャーの質問に多職種スタッフが答えます！

ケアマネ の 気付き

言語はST、作業はOTと
縦割りに見ていましたが、
そうではないと初めて気付きました。
今後の相談窓口が広がったと感じます。



ST・Nさん
紹介しましたが、問題は失語だけではなく、鉛筆も持てない失行がありました。手足に麻痺はないのに、鉛筆をどう動かすかが分からない様子的のため、包括的にリハビリを行いました。歩いたり食べたりは見守りやセッティングをすればできますが、自主的に顔を洗ったり、おなががすいたからご飯を食べるといった意欲が見えず、ベッドサイドでぼんやりと座ったままです。もともと興味があったことを奥様などから伺って、言語に

ケアマネ
STさんは言語や嚥下だけという認識でした。このようなアプローチも可能なのですね！
ST・Nさん
高次脳機能障害は、日常生活の動作で困ることが多いので、作業療法士（OT）が評価するイメージですが、実際に病院ではSTとOTが共同で評価しています。STが積極的に関わらないといけない分野です。

ケアマネ 相談室 File4

テーマ 思い込み

考えた人



言語聴覚士（ST）
Nさん

いつもありがとうございます！

その5

たまふれあいグループ連携施設のご紹介

ニチイケアセンター川崎長沢

044-978-3361

介護付有料老人ホーム
（一般型特定施設入居者生活介護）

介護職はご入居者の気持ちを医師や看護師につなぐ専門職

当社が展開する介護施設のうち、介護付有料老人ホームと住居型有料老人ホームを「ニチイのきらめき」シリーズとしてラインアップしています。ニチイケアセンター川崎長沢はこのシリーズの一つで、管轄している町田支店唯一の介護付有料老人ホームです。リーズナブルにご利用いただける料金を設定してご入居者の費用負担を減らす努力をしています。お食事は専門の外部業者に厨房を委託しているので、旬の食材を取り入れたプロのおいしい料理を出来たてでご提供しています。介護業界は今、ハード面の進歩が目覚ましく、介護スタッフはそれらを習得する必要性に迫られています。当社も動画やアプリを活用した研修を用意して隙間時間で学べるような取り組みを進めています。全国規模の組織なので、変化するときには一気には変わるスピード感がある企業風土です。そうした会社や社会の変化に対して現場スタッフが後れを取らないように、これまでの考え方にとらわれないゼロベースでの再構築が必要だと感じます。

例えば、全床に眠りスキャンという体感センサーを導入していますが、そこから得られる情報をどう活用するのか、その情報を一括化して見ることも慣れていく必要があります。個人的には、介護職とはご入居者の気持ちをくみ取り、主治医などへアウトプットする、つなぐことの専門職だと誇りを持っている。ご入居者の思いや気持ちをスムーズにつなげる施設でありたいですし、介護の人間が目立つ必要はない。目立たない人でありたいなと思っています。

たまふれあいクリニック
鈴木 忠院長より
おすすめポイント

経験豊富な常勤看護師さんがおられ当院との連携も強く、高い医療サービスがあり安心できる施設です。



川崎市多摩区長沢1-32-7
2009年10月1日開設
事業主体：株式会社ニチイ学館

生活相談員を経て今年7月から管理者になりました。期待されている役割に応えられるよう頑張ります



施設長・介護福祉士
きたがわ ただゆき
北川 惟如さん



医療法人メディカルクラスタ TEL:044-931-3380

〒214-0014 川崎市多摩区登戸1763 ライフガーデン向ヶ丘2F 【看護師・介護職募集中!】



地域のケアマネや看護師の皆さんのご経験からたくさん学ばせていただき、高め合う関係を築きたいです！



たまレボ!

今月のインタビュー

地域相談室 相談員

しんどう ゆり

進藤 優里



こんにちは！ たまふれあい地域相談室です。

今回は、相談室に新しくできたポジション・地域連携看護師に着任した中村を紹介します！

中村は大学病院の救命救急センターと一般病院の心臓外科、呼吸器内科などで看護師としての経験を積みました。育児のためにいったん仕事を辞めて、お子さんが成長してから一般企業の臨床研究部門のパートとして仕事を再開。ダブルワークで訪問看護もしていたそうですが、臨床研究部門の管理者として正社員に誘われたため、訪問看護を不完全燃焼のままで辞めることになったそうです。これまで医療機器や薬など、薬事承認を得た後の臨床のクリニカルクエストを解決するための研究に約12年間、取り組んできました。

そして今、訪問看護を不完全燃焼で終わらせたことへの心残りや、ご自身の親のこれからを考えるようになり、地域医療・介護に役立つ知識を増やしたいと考えて、多職種が連携する組織で働きたいと次の仕事を探していたタイミングで、この地域連携看護師の求人と出合いました。

入職して感じたことは、地域連携看護師として地域の病院とつながっていくことはもちろん、ここには「いい腕」を持つ方々がたくさんいるので、うまくサービスにつなげていくにはどうすればいいか、グループ内の連携もしっかりとやっていきたいということ。「グループホーム一つとっても、自分の親が入

居する前提で見ると、職員が楽しんで働いていて、感動した」と話します。例えば、訪問の歯科医から歯ブラシの介助方法を教わり、高いスキルで介護するグループホームの職員さんなど、それぞれの良さを感じているようです。

期待以上にいろんな知見が得られるところだと日々感じる中村が、皆さまからの相談をお待ちしています！

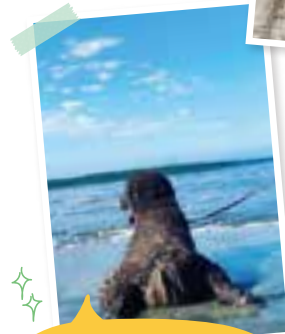
プライベートでは2人姉妹のお母さん。2019年5月5日にお住まいの逗子で行われた「砂の芸術」にて。娘さんのいとこやお友達と参加。



休日は鶴岡八幡宮の参道の桜を見ながらお散歩。



保護犬のスパニッシュ・ウォーター・ドッグと暮らしています。名前通り水が好きで冬でも海に飛び込みます！



地域相談室

イケダのつぶやき



2022年ももう終わりますね。皆さんはどんな年でしたか？
私は初めて社会人になって、目まぐるしい1年だったなあ～と感じています。



残り1か月、やり残しがないように過ごしましょうね(^^)／

(地域相談室 相談員 いけだ 池田あゆ)



たまふれあいグループ
Tama Fureai Group



たまふれあいクリニック
Tama Fureai Clinic



たまふれあい訪問看護ステーション
Tama Fureai Home Visit Nursing Station



たまふれあいの家
Tama Fureai Home



たまふれあい
高齢介護支援事業所
Tama Fureai



たまふれあいの森
Tama Fureai Forest



044-931-0220

〒214-0014 神奈川県川崎市多摩区登戸1763
ライフガーデン向ヶ丘2F